

<H17-4-A : 解答>

水平距離測定誤差 (0.3m) に高さの測定誤差 (0.1m) の影響を合わせると最大誤差になる。  
一様に  $8^\circ$  の傾斜地なので、次式のようになる。

$$0.3\text{m} + (0.1\text{m} \cdot 57^\circ / 8^\circ) = 0.3\text{m} + 0.7\text{m} = 1.0\text{m} \quad \text{縮尺 } 1/1000 \text{ なので } 1.0\text{mm}$$

解答 : 2

<H17-4-B : 解答>

- ア : 正しい。対象区域が広く修正項目が多いときには有利。
- イ : 間違い。TS によるときは、広範囲で詳細な内容の修正に適している。
- ウ : 正しい。平板測量によるときは、局所的な修正に適している。
- エ : 間違い。既成図には、より大きな縮尺のものを使うべき。

よって、正しいものの組合せは、1 の「ア, ウ」である。

解答 : 1

<H17-4-C : 解答>

最短距離ルートを選定するためには、「長さの要素」と、「向き」、「連結情報」が必要となる。  
すると名称や住所道路管理者などは不要だとわかり、座標(ア, オ)、接続状況(ウ)、ノード番号(カ)などが必要だとわかる。

よって、正しいものの組合せは 1 の「ア, ウ, オ, カ」である。

図はノード・アーク等の用語説明のために存在している。→午後試験への準備にもなっている。

解答 : 1

<H17-4-D : 解答>

- ア. 正しい。格子間隔を小さくすると、より詳細に表現できる。
- イ. 正しい。数値標高モデルと鉛直写真から正射写真作成が可能。
- ウ. 間違い。アナログ航空カメラによる撮影でも可能。
- エ. 正しい。等高線を忠実にトレースできないので、元の等高線よりも精度が低い。
- オ. 間違い。離散データでも画像化することは可能である。

よって、正しいものの組合せは 5 の「ア, イ, エ」である。

解答 : 5